

学校名	精道三川台高等学校
授業者	柳原 悟

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海洋教育プログラム

1-2. 学年

第2学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

総合的な探究の時間では、教科横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。本単元では、私たちの生活に深い関係を持つ海の現状について理解を深め、問題を把握し課題解決のために何ができるか、何をすべきかを考える。具体的にはSDGs 14「海の豊かさを守ろう」に関連し海に関する国際的な課題を設定し、グループで課題解決学習に取り組むこととする。問題の把握、課題解決に向けた情報収集、仮説検証を行い、その成果をプレゼンテーションし学びから得た知識や考えを共有する。また、選抜されたグループは文化祭で全校生徒、保護者に発表し、さらに海外姉妹校とオンラインで交流しこの成果を共有することでコミュニケーション力を育む。英語による交流会を行うことで教科横断的な学習に取り組み、持続可能な世界に貢献する人間を育成することもできると考える。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校の所在地である長崎県は、歴史的・経済的に海と深く結びついている。私たちの生活に恩恵をもたらすその海が、現在海洋汚染、海洋領域など様々な面で問題を抱え危機に瀕している。本単元ではまず生徒が現状を正しく理解することをねらいとした。また課題解決学習を通してこの問題を国際的な問題として捉え、当事者意識を育む。さらに海外の高校生との交流を通じて持続可能な社会に貢献できる人間を育成することをねらいとした。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

育みたい資質能力：課題解決学習を通して情報収集・編集能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
 態度：社会的問題に対して当事者意識をもち、具体的に行動する態度

1-7. 単元の展開（全 9 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>○昨年度取り組んだ SDG s に関する課題解決学習の振り返りを行った。</p> <p>○課題解決学習を行うグループ分けを行った。</p>	<p>【指導】 昨年度作成した SDG s をテーマとした課題解決学習のスライドを見せ、振り返りを行った。</p> <p>【主な評価】 環境問題に対する関心を高めることができた。</p>
2	<p>○グループごとに解決すべき課題を設定した。</p>	<p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海に関する国際的な課題について理解を深めることができた。 ・課題設定のための議論を通してコミュニケーション能力を高めることができた。
3 ・ 4	<p>○設定した課題についてインターネットを用いて情報収集を行った。</p>	<p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集能力を高めることができた。 ・現状の問題に対する理解を深めることができた。 ・問題が発生する背景を知ることができた。
5 ・ 6	<p>○プレゼンテーション用スライドを作成した。</p>	<p>【教師の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを作成するうえで注意すべきことを指導した。 <p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組んだ。
7 ・ 8	<p>○各班プレゼンテーションを行った。</p>	<p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力を高めることができた。 ・質疑応答を通してコミュニケーション能力を高めることができた。
9	<p>○海外姉妹港とオンラインで交流を行った。 フィリピンの姉妹校サウスリッジ高校の生徒に対して本校生がプレゼンテーションを行い意見交換した。</p>	<p>【主な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解を深めることができた。 ・英語による発言力を高めることができた。 ・コミュニケーション能力を高めることができた。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ


単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

海外の姉妹校との交流をとして異文化および海洋問題に対する理解を深め、多面的な視点で問題をとらえることができるようになる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>○本校生によるプレゼンテーション</p>  <p>「Let`s protect the abundance of the sea!」 (海の豊かさを守ろう)</p> <p>「The issue of South China Sea territory invasion of China」 (中国による南シナ海領土侵入問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校の生徒にたいへん好評であった。 ・本校生徒は熱心に発表を聞き取っていた。 <p>○質疑応答・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活発な質疑応答が行われた。 	<p>【教師の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン交流のための機器設定を行った。 ・姉妹校の生徒の英語が理解できなかった場合に英語科教員が通訳をした。 <p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回取り上げた海洋問題が国際的な問題であることを共有できているか。 ・調査結果や考察内容を正しく伝えることができているか。 ・質問に対してエビデンスをもとに答えることができているか。 ・異なる文化を背景とした考え方の違いに気づくことができているか。

3. 今回の活動の自己評価

当たり前と思っていることに問題を発見することは難しいが、存在意義を意識することで課題発見につながる。今回の活動では身近な存在でありこれまであまり意識することのなかった「海」について認識を改めることができた。海洋汚染の問題はメディアを通じて知っている生徒が多いが、問題の原因や背景となっていることにまで考えの及ぶ生徒は少なかった。しかし情報収集していく中で私たちの生活がもたらす海への影響を知ることができた。中国地方を巡る修学旅行においても鳥取砂丘や瀬戸内海を訪れ圧倒的な自然の美しさを目の当たりにしたことは、今回の学びと深く結びつき心に刻まれた。また、姉妹校との交流を通して国際的な視点で問題をとらえることができた。特に領土問題は「正解のない問い」であり解決困難な課題の一つである。このような問題に対して「自分ごと」としてとらえ、課題解決に挑む能力を高めることができた。

4. 今後の課題

当初海外研修に行ったものが海外の現地からオンラインで現地の様子をレポートし、現地の高校生と交流・意見交換をしつつ日本とつなげて交流を図る予定であったがコロナ禍の影響で実施できなかった。また、校外での河川清掃活動も計画していたが行うことができなかった。同じ理由でプレゼンテーション後も具体的に解決に向けた活動を校外で行うには至らなかった。次年度以降自分たちにできることを明確にして具体的に実践する、そして振り返ることで新たな課題を見つける、という課題解決のサイクルを確立していくことが今後の課題と言える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。